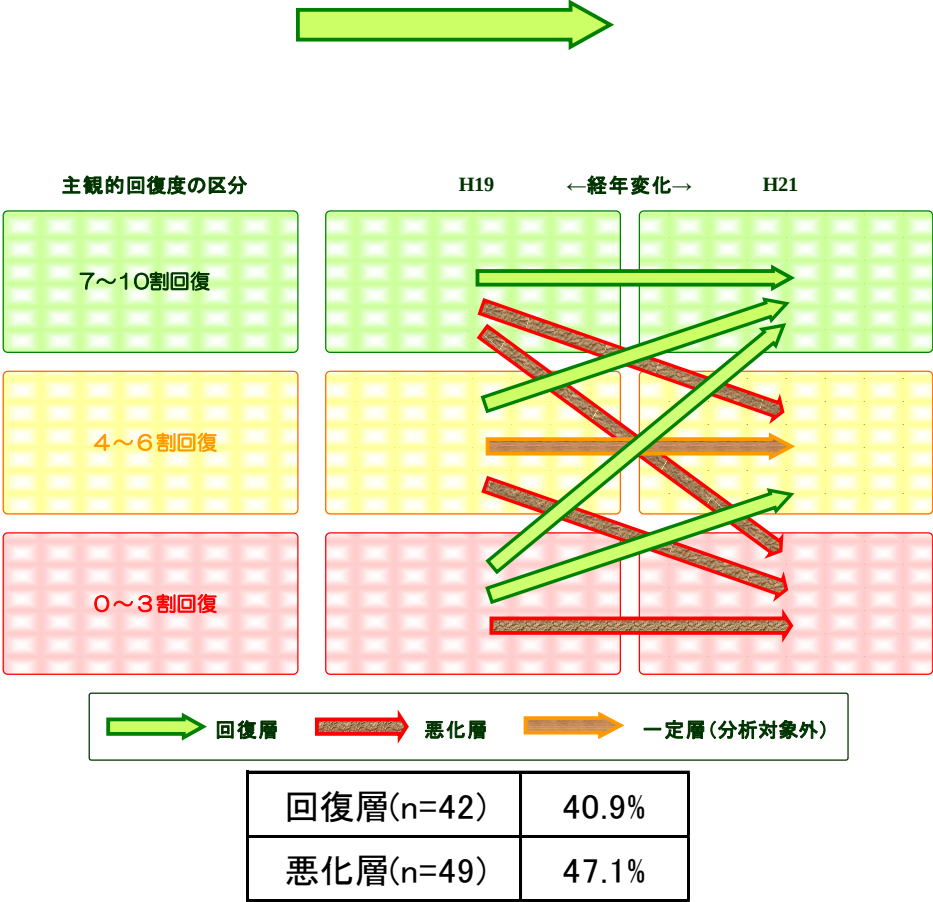


図表 3-47 主観的回復度によるグループ分類の概念図と分類結果（サンプル数）



3-3-2 回復傾向別の基本属性

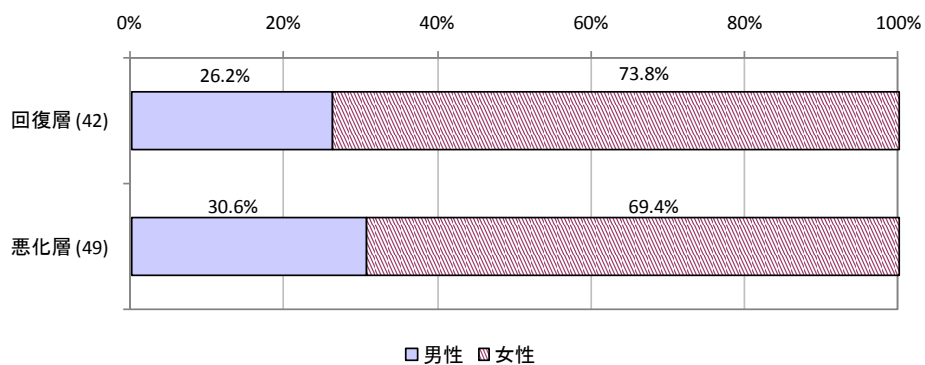
回復傾向別の基本属性の傾向は、性別では回復層と悪化層に大きな差はみられないものの、年齢では、40～49歳で悪化層の割合が高い（図表3-48、図表3-49）。

回答者と被害者の関係では、回復層では「父母」、「兄弟姉妹」、「祖父母」「孫」の割合が高く、悪化層では「子」の割合が高くなっている。「配偶者」とする回答に差は見られなかった（図表3-50）。

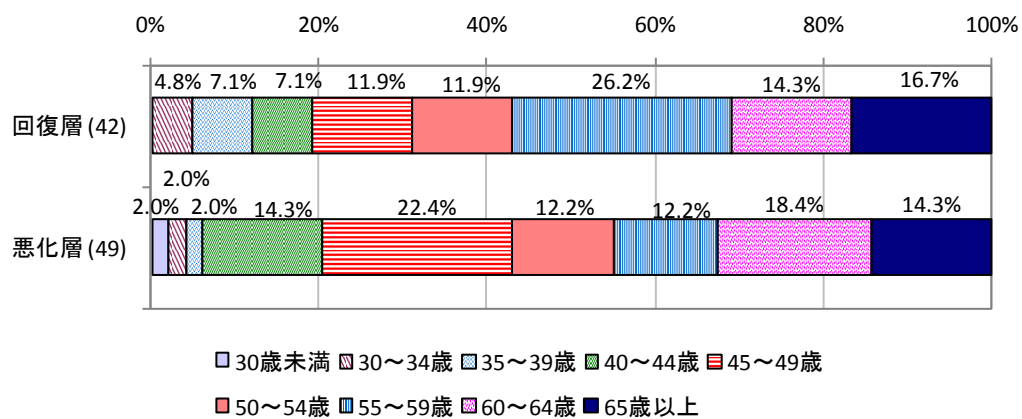
職業別で回復層と悪化層を比較すると、回復層の方が「専業主婦・専業主夫」の割合が高く、悪化層では「会社員（役員・管理職）」、「パート・アルバイト・フリーター」の割合が高い（図表3-51）。

同居家族人数でみると、悪化層では1人暮らしの割合が回復層よりも低く、4人以上という回答が高くなっている。回復層での1人暮らしの割合は12.2%であり、悪化層の約3倍である。これは、1人暮らしが回復につながったというよりも、回復したために1人暮らしが可能になったとも考えられる（図表3-52）。世帯年収、婚姻状況別では、回復層、悪化層に大きな差は見られなかった（図表3-53、図表3-54）。

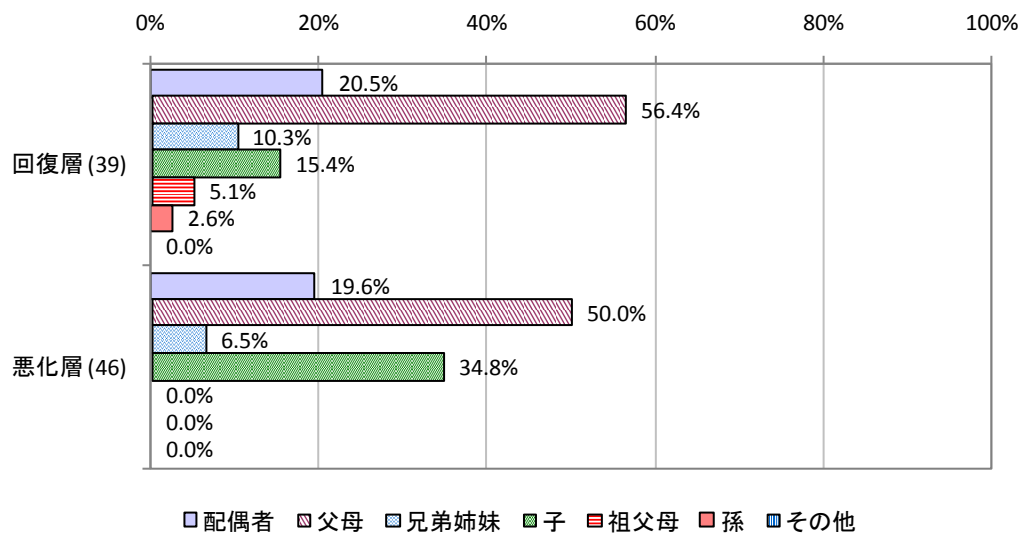
図表 3－48 回復傾向別、性別



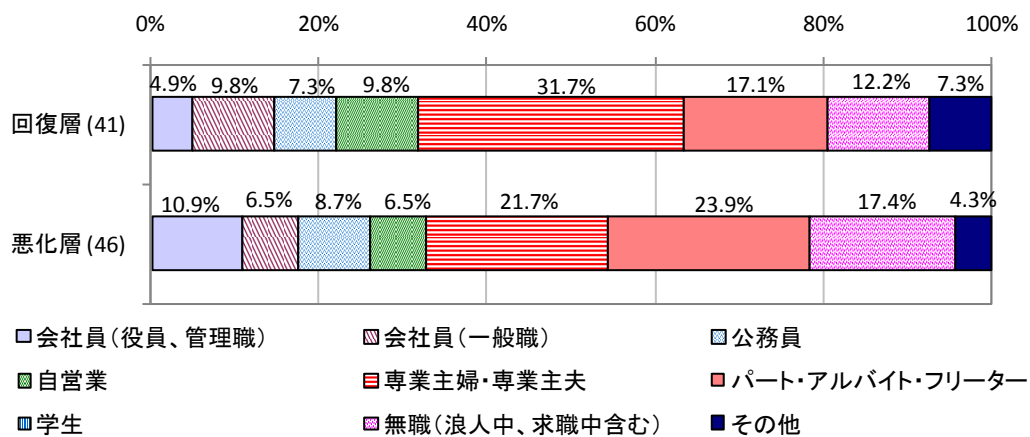
図表 3－49 回復傾向別、年齢（平成19年度調査時点）



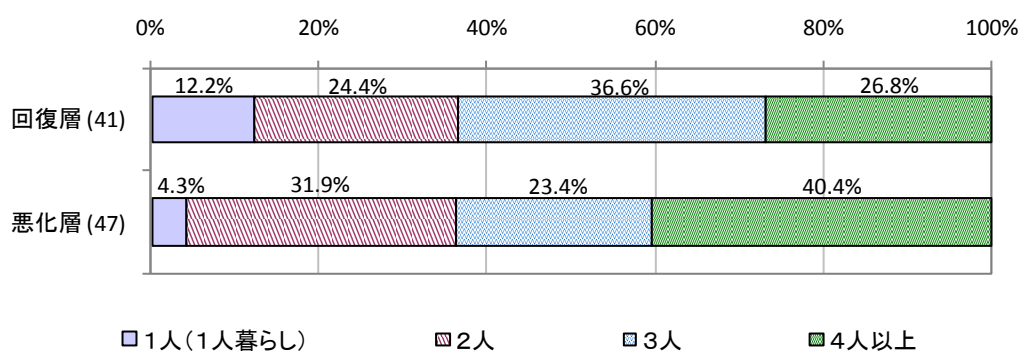
図表 3-50 回復傾向別、回答者と被害者の関係



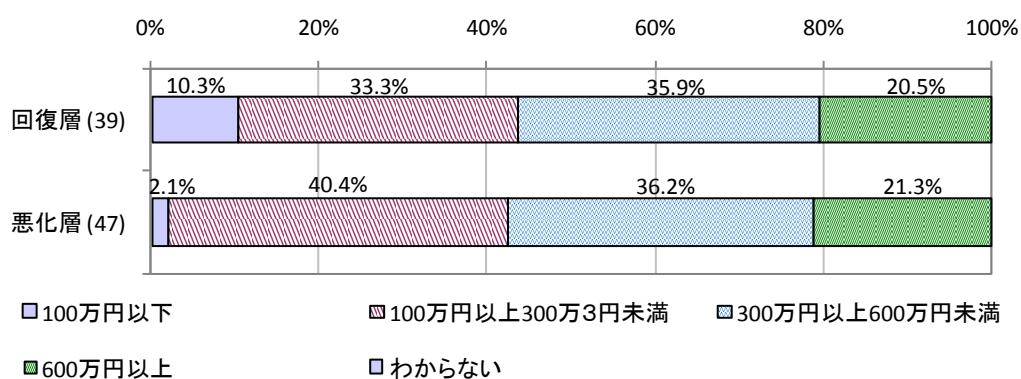
図表 3-51 回復傾向別、職業（平成19年度調査時点）



図表 3-52 回復傾向別、同居家族人数（平成19年度調査時点）



図表 3-53 回復傾向別、世帯年収



図表 3-54 回復傾向別、婚姻状況

